

令和7年度

岩倉中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、身に付いたことを生かして課題解決を図ろうとする生徒の育成
- 将来を見据え、自ら学習計画を立て、意欲的に学習しようとする生徒の育成
- 思考力・判断力・表現力を高めるための授業実践
- 個に応じた指導の改善とICT機器の活用等の指導の改善

校長

住友 咲子

学力向上推進員

西岡 幸輝

【各校の取組状況の把握について】

全教職員が学力に関わる課題や情報を共有し、学校として重点的に取り組む内容を明確にする。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な学習態度で、素直に努力を積み重ね、課題にも熱心に取り組むことができる。 ●学習習慣が定着していない生徒がおり、学力の二極化傾向が見られる。	・毎日の授業を大切にし、目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒 ・毎日の家庭学習を習慣化し、意欲的に家庭学習に取り組む生徒 ・課題解決をめざし、粘り強く課題に取り組む生徒	・スモールステップで学習をすすめ、小テストなどを実施し、理解度を把握するとともに、基礎学力が定着するよう個別指導や授業研究を行う。 ・「家庭学習の友」や「家庭学習の手引き」を使い、家庭の協力を得ながら学習ルールを明確に決める。 ・オンライン学習アプリを有効活用して、個別に基礎基本の定着を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題を解決するために、自分の考えをまとめたり、表現を工夫したりして取り組もうとしている。また、全体的に自分の考えを意欲的に発表しようという雰囲気がある。 ●粘り強く考えたり、自分の考えや意見を的確に伝えたりすることに課題が見られる。自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身に付ける必要がある。また、積極的に自分の考えを発表することに苦手意識をもっている生徒もいる。	・授業中、課題に対してじっくり考え、目的に応じ根拠や理由を明確にしながら自分の意見の表現ができる生徒 ・相手の発言の意図を捉えながら聞いたうえで、相手の考えを受け入れ、自分の考えを確認したり、さらに深めたりできる生徒 ・身に付いた知識や技能を課題解決に生かすことができる生徒	・毎時間、目標の提示と振り返りを行うことで、目的意識を持って学習に取り組むことができるようにする。 ・文章の音読や図表の読み取り、重要な部分に下線を引いたり、枠で囲んだりするなどの学習方法により、「徳島版読解力」の育成を図る。 ・授業中、タブレット端末等のICT機器(MetaMoJi Classroom)、ホワイトボード、ペア学習や思考ツール等を活用し、効果的に意見を交換する授業展開の工夫をする。 ・知識や技能を生かすことができる課題解決の機会を設定する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自ら設定した内容で、自主学習ノートを継続している生徒が、一定数いる。 ●自分の将来を見据えた目標設定ができていないため、主体的に学習に取り組む姿勢が十分身に付いていない生徒がいる。そのため、毎日の自主的な家庭学習の時間が十分確保できていない。	・自己実現のために、生活を振り返り、自分が今やるべきことをしっかり考え、学ぶことの意義を見出し、実行できる生徒 ・自己の課題を見つけ、課題解決の方法を学ぶ中で、学習することの楽しさ、学ぶことの喜びを感じ、自分を成長させるために努力することができる生徒	・単元構想を工夫し、単元を貫く課題を解決することで、主体的に学習に取り組む態度を引き出す。 ・授業で扱う教材を工夫し、生徒の話し合いや、意思決定の機会を盛り込む。 ・「キャリア・パスポート」「家庭学習の友」「家庭学習の手引き」等を効果的に活用し、保護者との連携を図りながら、将来の職業選択を視野に家庭でも課題解決学習の習慣化を図る。 ・授業改善チェックリストを活用し、授業の『振り返り』を行い問題点を改善する。			